



沖 大幹 (OKI Taikan)

東京大学生産技術研究所 教授
総長特別参与
国連大学上級副学長

東京大学工学部卒業、
同大学院工学系研究科修了。
修士 (工学)、博士 (工学)。

東京大学生産技術研究所助手、講師、助教授を経て 2006 年から現職。2016 年から総長特任補佐、2017 年から総長特別参与兼務。また、2016 年 10 月から国連大学上級副学長も兼務。その間、日本学術振興会特別研究員としてアメリカ航空宇宙局 (NASA) ゴッダード研究所に、また助教授として大学共同利用機関総合地球環境学研究所に、上席政策調査員として内閣府総合科学技術会議事務局にも勤務。

地球水循環システムを専門とし、気候変動がグローバルな水循環に及ぼす影響やヴァーチャルウォーターを考慮した世界の水資源アセスメント、水文学(すいもんがく)へのリモートセンシングの応用などを主な研究対象にしている。

気候変動に関わる政府間パネル (IPCC) 第 5 次報告書統括執筆責任者、国土審議会委員、また、科学技術・学術審議会や社会資本整備審議会の専門委員なども務めている。

主な著書として、『水の未来—グローバルリスクと日本—』(岩波新書、2016)、『東大教授』(新潮新書、2014)、『水危機ほんとうの話』(新潮選書、2012 年; 土木学会出版文化賞および水文・水資源学会学術出版賞を受賞)、監訳に『水の世界地図』(丸善出版、2006 年)、『水の世界地図第 2 版』(丸善出版、2011 年)、監修・解説に『水の日本地図』(朝日新聞出版、2012 年)、『水の未来 - 世界の川が干上がる時 あるいは人類最大の環境問題 - 』(日経 BP、2008 年)、対談に『水ビジネスに挑む』(技術評論社、2009 年)、共著に『国土の未来』(森地茂編著、日本経済新聞社、2005 年)、『水をめぐる人と自然—日本と世界の現場から—』(嘉田由紀子編著、有斐閣選書、2003 年) などがある。『教えてください。富野です』(富野由悠季、角川書店、2005 年)、『茂木健一郎科学のクオリア』(茂木健一郎、日経ビジネス文庫、2007 年)、『気候科学の冒険者—温暖化を測るひとびと』(中島映至 監修、技術評論社、2010 年)、『世界を救う 7 人の日本人—国際貢献の教科書』(池上彰 編・著、日経 BP、2010 年) などにもインタビューなどが紹介されている。

第 16 回生態学琵琶湖賞 (2011 年)、第 2 回海洋立国推進功労者表彰 (2009 年)、日経地球環境技術賞、日本学士院学術奨励賞、日本学術振興会賞、科学技術分野の文部科学大臣の科学技術賞の表彰 (いずれも 2008 年) を始め、土木学会環境賞 (2005 年)、日本水大賞奨励賞 (2004 年)、国際水文科学会 (IAHS) Tison Award (2003 年) ほか表彰多数。水文学部門で日本人初のアメリカ地球物理学連合 (AGU) フェロー (2014 年)。

【東京大学講師陣】